



めいほうかん高校便り

～品川の風～2011年10月NO.5

■2011 公開フォーラムと講演会「教育と心理的なニーズのある生徒の進路の選択」～進路の選択に備えた一貫性のある指導を目指すには～

日 時：10月22日(土) 正午12時会場受付 12時30分開講
会 場：品川インターシティホールC棟 (JR品川駅から徒歩5分)
電 話：03-3456-2750
公開フォーラム：実践報告者5名、講師：カニングハム久子先生

＜実践報告者＞

武藤富子氏 発達障がい児保護者
坪井久美子氏 特定非営利活動法人パルレ理事長
野口美加子氏 「マイ・ライフ・ブック：私の生活記録」 翻訳者
小賀友子氏 明蓬館高等学校副校長
中島規至氏 同校 特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー



参加費：1,000円 ※当日会場にて承ります
定 員：100名 (先着順です)

プログラム：12：30-14：30 実践報告者5名による公開フォーラム
14：30-15：30 カニングハム久子先生講演会

＜事務局＞アットマーク明蓬館高等学校 品川キャンパス
〒141-0001 東京都品川区北品川 5-12-4 山泉ビル3F
TEL：03-3449-7904 / FAX：03-5423-2813 / e-mail：soudan@at-mhk.jp
担当：小田、新田

■実践報告者

- 武藤富子氏 発達障がい児保護者
小中生2児を学校や専門家と連携のもと家庭中心で育てています。どの子ども安心して地域社会の中で成長できる社会をめざしています。
- 坪井久美子氏 特定非営利活動法人パルレ理事長
品川区よりの委託を受けて発達障がい思春期サポート事業を実施しています。
- 野口美加子氏 「マイ・ライフ・ブック：私の生活記録」 翻訳者
本人、支援者らが一緒に作る「マイ・ライフ・ブック」の普及を訴えています。
- 小賀友子氏 明蓬館高等学校副校長
家庭児童相談員や民生委員らと協力して発達障がい者の学習を支援しています。
- 中島規至氏 明蓬館高等学校 特別支援教育コーディネーター
臨床心理士として、学習とコミュニケーションの支援に従事しています。

参加申し込みはこちらからどうぞ。
<http://www.at-mhk.jp/event.html>



■本校生徒の中村沙代さんと清水麻央さんが品川キャンパスに立ち寄ってくれました。

「将来の進路のことを東京で考えられた」と言って福岡に戻りました。また来てください、中村さん。

■ある日の弁当～

本校スクール生達は12時の町内サイレンが鳴るとパソコン室からホールへ移動し、食事を始めます。お母さんが作ってくれたお弁当、自分で作ってきたお弁当、カップラーメン等色々です。

私はおしゃべりがてらのぞきに行くのを楽しみにしています。このお弁当の作者のMちゃんは毎日自分で作ってきます。仕事をしているお母さんにかわり夕食の支度もお手のものです。自立へ向けて日々精進しています。ハート形の卵焼き、ハート形のウインナー、サラミハムのりぼん。私も作り方を習いました。食べるのがもったいないくらいかわいい心のこもったお弁当です。

副校長 小賀友子



■今月の珈琲「学校のカフェテリア」 校長 成田 滋

アメリカの大きな街のダウンタウンの学校へ行って驚くことの一つは、子どもが給食の朝食からその日の学校生活が始まるのを見ることです。貧しい家庭の子どもは、家で朝ご飯を食べないのです。こうした子どもは、無料の昼食も学校で支給されます。この2食でその日に必要な栄養がとれるというわけです。

実は私の3人の子どももアメリカの学校で無料の給食を受けました。ウイスコンシン州のマジソンにいたときです。私が無収入の大学院生だったからです。私はアルバイトで懸命に家族を支えていました。定職がないことを申告すると教育委員会から無料の昼食券が送られてきます。どんな国籍の子どもでも貰えるのです。髪が黒くても亜麻色でもいいのです。この昼食券



アメリカの学校の昼食は、カフェテリアに子どもが集まってきて皆で食べます。自分の好きなものをトレイにとります。このランチは1ドルくらいです。ランチのメニューは多くはありませんが、栄養がたっぷりです。学校での給食風景は、アメリカという国が国境を越えてやってくるすべての子どもを平等に扱うという、友愛に満ちたところであることを感じさせてくれます。

を手にしながら「この国は、なんとおおらかなのか」と思ったものです。

長男が5年生になったとき、「自分でランチを買いたい」と言い始めました。給食券では、片身が狭く感じるような年齢に達したようです。他の友達のように、自分のお金でランチを買いたくなったのです。



■品川の今昔 その5 大森貝塚

京浜急行に「大森海岸駅」があります。明治34年の2月に京浜電気鉄道大森支線として大森停車場前一六郷橋間開業時に「八幡駅」として開業したのが大森海岸駅です。昔は海岸が近くにあったのでしょうか。江戸前天ぷらの店があります。平和島の手前から第一京浜は旧東海道に入ります。今は美原通りと言われていています。旧東海道の石柱は立ちます。所々に古い名跡があり街道の昔が感じられます。

アメリカ人の動物学者・エドワード・モースが、明治10年に横浜から新橋へ向かう途中、大森駅を過ぎてから直ぐの崖に貝殻が積み重なっているのを列車の窓から発見します。これが大森貝塚です。この貝塚は、品川区から大田区にまたがる縄文時代後期～末期の貝塚として知られています。



■学びにくさを持つ子供たちの“中学・高校選び”を考えるシンポジウム

自閉圏にいる発達障害生徒の保護者のための緊急シンポジウムを開催することになりました。中学・高校進学を選択肢を考える、というテーマです。

日時 11月3日(祝) 13:00開場 13:30開始 16:00終了

場所 品川区立中小企業センター 大会議室

品川区西品川 1-28-3 TEL. 03-3787-3041

JR線・東急線・りんかい線「大井町」駅徒歩10分

参加費 1,000円

定員 96名(先着順)

対象者 特別支援、個別指導を必要とする生徒の保護者

基調講演 本田秀夫氏(ネスト・ジャパン代表;発達精神科医師)。

主催 東京・特別支援連携機構・感動 KANDO

共催 NPO 日本ホームスクール支援協会/NPO 法人 パルレ

■職員の紹介

明蓬館高校理科担当の加藤恵利果(かとう えりか)です。家族構成は夫、息子(5歳)の3人です。水族館が好きで、いつか家族で日本中の水族館を見学したいと

思っています。自宅では3つの水槽で淡水熱帯魚や金魚を飼っています。

私の口癖は「それって成果物になるんじゃない?」です。生徒たちとの会話中に「なぜ?」「これってどんなこと?」「これ面白そう」と言われると、つい出てしまう言葉です。これは姉妹校のアットマーク国際高等学校在職中から変わっていません。生徒たちには、小さなことでもいいので1日1つ「そうか、わかった!」という経験ができるよう、サポートしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

■英語との出会い 成田 滋

今は誰もが英語を学びます。しゃべれる人も多いです。私は他の人とは学びの経緯は大分違います。昭和21年に北海道の美幌にいた頃です。かつての海軍の航空基地が美幌にあって進駐軍がやってきたのです。そこから私の英語に対する興味が始まります。

ほどなくして国内の治安を保つために警察予備隊が組織され美幌にやってきました。進駐軍と予備隊が基地に共存することになります。「舶来品」とか、携行食料缶詰である「レーション」などが外国への興味をかきたてました。中学のとき、稚内に2年間住んだのですが、米軍の通信基地がありました。始めて味わったコココーラや黒人は白人の兵士がバスケットボールをする姿に驚き、彼らと話をしたくなったものです。

■編集後記

目標を立てよ、とはよくいわれることです。「いつかは目標に通じる歩みを一步一步と運んでいくのでは足りない、その一步一步が目標であって、一步そのものが価値あるものでなければならぬ」と言ったのはゲーテという文学者です。

マラソンを振りかえると、ランナーは42キロを完走するという目標があります。1キロ、あるいは5キロごとに体調と相談し、ペースを維持するか、少し上げるか、水を補給するか、緩やかな坂をどう登るか、などを考えます。

生徒にある行動を習得させるためには、小さな目標の積み重ねを経て、まとまった行動ができるよう仕向けていきたいものです。(成田)